

国際交流基金助成事業報告書

薬学部 2 年次生 中村 志聞

1. はじめに

私は、3 月 10 日から 3 月 31 日までの 3 週間、アイルランドで語学の短期留学をしました。ホームステイを行い、滞在中の平日の午前中は、語学学校である The honor school of English で語学の勉強をし、午後は学校のアクティビティーに参加したり観光したりして、アイルランドについて様々なものを見聞きし学びました。

2. 語学学校にて

The honor school of English で学びました。授業は平日の 9 時 30 分から 13 時 30 分まででした。初日は文法とリスニングの基本的なテストを受けた後、7 つあるクラスの中の 1 つに振り分けられました。僕は、スピーキングのスキルが乏しかったため、エレメンタリークラスに編成され、3 週間スピーキングスキルを基礎から鍛えました。クラスメイトは、私以外のほとんどがブラジル出身で、他 2 人がスペイン出身で、スペイン・ポルトガル語圏の方でした。去年私が行ったカナダでもそうでしたが、本当に大勢のヒスパニック系の人々が英語を学びに来ていました。ブラジルなどマルチカルチャーな国は、英語を話せると、ビジネスの選択肢が広がるからだそうです。

授業では、最初にボキャブラリーや文法を学んだ後、それらの知識を使って隣の席の人と会話をするといったものがメインでした。ごく単純でしたが、日常のなにげない会話でも、多彩なボキャブラリーを駆使しなければならないので、思ったより苦労しました。過去に学習して知っている単語でも、会話で瞬時に思い出して話すには訓練がいるのだと、改めて実感しました。ただ、去年の短期留学とその後の英語のニュースラジオのリスニングを通して、リスニングのスキルがかなり向上していたため、以前よりもスムーズに会話でき、成長を感じることができて良かったです。また、雑談の一環で、先生にアイルランドの歴史や文化について教えていただきました。これがとても面白く、歴史好きの私としては満足でした。また時々、自分の国についても様々なことを発表しました。ブラジルには、日系の方が多いため、ブラジル人のクラスメイトのうち何人かは日本について興味を持っていて、歴史についてなどいろいろ聞かれました。中には、コメは神聖な穀物だとか、神道に関したことなど、マニアックなことまで知っている人もいて、驚きました。



3. アイルランドはどんなところか

アイルランドの3月下旬の気温は、平均して日中2℃～5℃でした。北大西洋海流という暖流の影響で、高緯度の割にはあまり寒くはなかったです。雨や曇りが非常に多く、晴れの日には珍しかったです。一日の天気は非常に変わりやすく、朝は晴れていても昼下がりには曇り、または雨という日がしょっちゅうでした。街の風景は、中世の頃からの昔ながらの風景がさりげなく保存されていて綺麗でした。国自体は、国土が北海道くらいの大きさの島国ですので、首都のダブリンシティでは狭い範囲内にレストランやお土産屋さん、スーパーなど様々な店が揃っていて、コンパクトな町でした。また、アイルランドは各地に大勢の王や貴族がおり分割統治していた時代があり、たくさんの城があり、観光地として景観が守られています。私は、キルケニー城、マラハイド城、ダブリン城の3つを訪れました。ヨーロッパの国ということもあって、キリスト教が国教で、町の至るところに教会や大聖堂がありました。ただ、アイルランド自体は、妖精や人魚発祥の地であり、ハロウィーン文化の生みの親の国でもあり、どちらかという和多神教的で日本に近い信仰心を持っています。それゆえ、あまりキリスト教にそこまで熱心というわけではないような印象でした。ホストファミリーも無神論寄りの方でした。

私の印象としては、アイルランドは、決して日本人にとってポピュラーな国ではありませんが、もっともヨーロッパらしさが綺麗に保存された国ではないだろうかと思えます。と

いうのも、ヨーロッパは少なくとも2度、文明的なアイデンティティーが失われかねない歴史的な危機を経験していますが、アイルランドは一度もあまり影響を受けていません。歴史的な危機といいますと、1つ目は、ローマ帝国崩壊に伴う暗黒時代ですが、そんな時代でもコンスタントに文字による記録が残されつづけ、アイルランド史はかなり詳細に記録が残っており、ヨーロッパ史の研究解明に重要な手掛かりとなったそうです。2つ目は、フランス革命に続く市民革命の伝播です。島国故にイギリスと同様、大陸から隔離されているため、過激な思想が入り込むことなく、歴史と伝統は壊されず守られ続けました。これらのことに、アイルランド人は誇りを持っている人が少なからずおり、自国と歴史を愛している人が大勢いました。また、アイルランドの歴史は、イギリスによる支配と抵抗の歴史で、長い間イギリスに支配され続け、時には大量に虐殺されたり、食糧を取り上げられて大勢の餓死者を出したりという圧政が、第一次世界大戦後の独立まで続きました。そのため、アイルランド人には反英感情を持つ方もおり、語学学校の先生もその一人で、しばしばイギリスの悪口を遠回しに言っていました。とにかく、タフな歴史をもつ国です。本当に大勢の犠牲を出しながらも、しぶとく生き残り続けた国家だと思います。多くの人々の心に様々な形で刻まれているようで、先生やホストファミリーにたくさんのことを教えてもらいました。そういった歴史背景を頭に入れたうえで、たくさんの歴史的な名所を観光して見て回ると、どれも重く、美しく感じました。本当に、様々な視点から、アイルランドを見ることができたと思います。







4. ホームステイ

今回、3週間の間、フォスターさんのお宅に滞在しました。家族構成は夫婦と18歳の娘さん、6歳の男の子の4人家族でした。マザーはとても気さくで話し好きで、アイルランドについてたくさんのお話を話していただきました。ファザーは寡黙な方でしたが、とても親切で困ったときにたくさんアドバイスしていただき、本当に助かりました。6歳の息子がやんちゃで手を焼いていて、時々その愚痴を私にこぼしていたのが、ちょっぴり面白かったです。夫婦仲はとてもよく、家事を分担していて協力していました。だれがいつ何をするのかということを特に決めているようでもなく、夫婦のその日の状況次第でランダムに家事をやっているのに驚きました。いい夫婦だなと思いました。



5. 最後に

この2週間、非常にたくさんの貴重な体験ができたと思います。去年よりもリスニングスキルをある程度鍛えたうえで臨めたことと、2回目の留学というのもあって全体的に余裕をもって体験できたことが、本当に良かったです。余裕があったぶん、授業や観光を通して、語学だけにとどまらず、歴史や文化を含めたアイルランドの様々なことを見聞きし学ぶことができました。この滞在を通して、自分の内面・考えに変化を感じており、本当に良い刺激を得られたと思います。この学びをこれからの成長に役立てていきたいと思っています。